

第3回福島市花と緑の基本計画策定検討委員会 会議録

1 日 時 令和7年11月13日(木) 13:30~15:30

2 場 所 福島市市民センター 312会議室

3 出席者 委員10名

小林 敬一 委員長

アサノ コウタ 委員

金子 真樹 委員

田崎 由子 委員

中野 義久 委員

山崎 樹里 委員

細田 真矢 委員

鈴木 深雪 委員

羽田 ミチ子 委員

渡辺 駿 委員

4 欠席者 委員3名

市岡 綾子 副委員長

二階堂 義樹 委員

齋藤 信也 委員

5 内 容

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 議事

①第3章から第5章について

・花と緑の将来像図、各種ネットワーク図

・施策の体系図

・中心市街地のネットワーク図

②今後のスケジュールについて

(4) 閉会

6 会議詳細

(1) 開会

(2) 委員長挨拶

前回も申し上げたが、今回の花と緑の基本計画策定は非常に厳しく難しい時期の計画だと認識している。最近は何の話もあるが、我々自身人間と自然との距離感をうまく取れるかどうか悩んでいる時期の計画かと思う。

緑についても、とにかく緑を増やせば良いわけではなく、適切な管理を希望する声も非常に高まっている。このような状況の中でどのように自然と関わっていくのかが問われている。

しかし、あくまでも計画であるため、まずは現実的に一步一步、前進できるような計画にすることが大事だと思う。

また、緑や自然などの意味をもう一度ここで我々が問い直す機会にもなれば良い。

今後、人間と自然の在り方を問い続け、探り続ける第一歩となる計画となり、その先に希望が見えてくれば何より良い。

本日は忌憚のないご意見をいただき活発な議論を行いたい。

(3) 議 事

委員長

議題①第3章から第5章について

花と緑の将来像図、各種ネットワーク図について事務局より説明をお願いします。

事務局

P7～12「2.第 3 章 花と緑の将来像と目標・方針」以降の緑の将来像図、各種ネットワーク図について説明

委員長

事務局の方から説明があったが、委員の皆様のご意見を頂戴したい。

委 員

ただいま説明いただいたネットワーク図や配置図について、縮尺や配置が統一されていないとすれば比較が難しいと感じた。

花のネットワークの場合には福島駅前周辺の詳細を記載しなければならないことも理解しているが、掲載する際に縮尺を揃えることは難しいだろうか。

また、ネットワーク図を Google マップのデジタルデータのような拡大縮小ができ、かつ様々なネットワーク図をレイヤーが分かれた状態で重ねて見ることも可能かと思うが。

事務局

縮尺については、本編で取りまとめる際には可能な限り統一感を持たせたい。

2点目のデータの重ね合わせについては、そのような方法もあり得ると改めて思った。

様々な情報をオープンデータで公表している中、ネットワーク図を有効活用するための手段としては十分に可能性がある。

今回は、水辺と緑のネットワーク図、花のネットワーク図を分けてお示ししているが、ネットワーク図を重ねることにより新たな視点で見えることもあると思われる。

今回、進めている取組の中ですぐ実行するという返答はなかなか出来ないが、今後の検討課題として捉えながら有効性を検討して参りたい。

委 員

P8「2.第3章 花と緑の将来像と目標・方針 ■水辺と緑のネットワーク図」に緑のシンボルがあるが、千貫森は都市公園ではないのか。

また、P10「2.第3章 花と緑の将来像と目標・方針 ■緑の交流拠点配地図」のタイトルについて「緑の交流拠点配置図」の「置」の漢字が誤っている。

事務局

漢字は誤りのため、本日提供した資料は訂正した。修正版を改めて皆様へお送りする。

もう1点の千貫森について、千貫森は都市公園に該当していなかった。おっしゃる通り、都市公園という括りを外して検討に加えていきたい。

例えば小鳥の森も福島市が管理をしているが、所管が異なる公園もある。そのような公園も可能な限り整理していきたい。

委 員

P5「2.第3章 花と緑の将来像と目標・方針」に「Well-being が実感できる水と緑豊かな都市」とあるが、市民の幸福感や Well-being をどのような指標や調査方法で測るのか。

事務局

どのように測るかは大きな課題だと捉えている。後ほど説明するが、1つとして市民満足度が挙げられる。

市民満足度調査の結果を基準に設定し、市民の皆様と共に花のまちづくりや緑の質の向上に取り組むことでどのように市民の意識が変わっていくか、毎年 LINE アンケート調査を行い把握したいと考えている。

そして、花の満足度や緑の質の満足度も向上するような取組を施策として行いたい。

・P11～12 施策の体系図について説明

委 員

P11の体系図は基本的施策に対応する個別施策、細分化されたものが重点施策として取り組まれることで、花と緑が実り彩り湧き満ちる福島市になるであろうと思った。大変楽しみである。その上で気になる点を2つほど挙げる。

1点目は、基本方針Ⅲの文言についてである。個別施策では「花や緑の育成活動機会の創出」、「花や緑に触れ合える場の創出」など、学び体験の提供、ひいては人材育成に重きを置いた方針だと考えられる。

しかし、基本方針Ⅲには「次世代につなぐ花と緑を育てる」と記載があり、花と緑自体を育てるような文言に見えてしまう。あくまでもこの基本方針Ⅲは、担い手の育成や花や緑に触れ合

える場を創出することで、子どもたちや若者たちにも意識を回復、醸成させるという人材育成の方針だと思われるが「花と緑を育てる」のみを見ると基本方針Ⅱと意味合いが重複してしまう。文章の詳細を読むと将来の担い手を育てるための取組を推進すると記載があるが、見出しをさらに分かりやすくした方が基本方針Ⅱと基本方針Ⅲが混同しないと感じた。

2点目は、P12「3.第4章 花と緑のまちづくりの施策 ■重点施策」の花に見立てた「まもる」「つくる」「育てる」の図についてである。

体系を示すページとして、基本方針Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの関係性が示された図を作成された方が理解しやすい。体系とは枠組みを示すもののため、人材を育成して場を作ることで完了するわけではなく作られた場に関わる人材も成長することで、基本方針Ⅰ「まもる」が達成されると思う。

全てを網羅した体系を示すことは出来ないが、この計画を永続的に推進するために、循環するような図として「まもる」「つくる」「育てる」の関係性も示せると、より体系が分かりやすくなるのではないかな。

事務局

これから本編を作成していく中で、様々なご意見や頂戴したアドバイスも含めて検討していきたい。基本方針Ⅲについてもおっしゃる通りのため、今後修正を検討する。

委員

今回、ガーデニング教室事業を強化されていくことについて、教室に行ったことがない方や独学で行われていた方に向けて、自身の生きがいや新たな趣味になるといった意味で強化するのは良いことだと感じた。

一方、昨日目に留まったガーデニング問題という話題のニュース内容を共有する。自身の趣味で始めたが途中で辞めてしまった場合の土の廃棄場所がないために野山や公園に土を捨ててしまい、本来あった土の成分以外のものが混ざってしまうことや、他の外来の植物がどんどん生えてしまい元の植物がなくなるといった事象をニュースで拝見した。

福島市でもゴミ処理場で引き取り不可能とのことだった。

そのような状況では、ガーデニングを始めるにしてもリスクがありハードルが高いと感じた。

もし、ガーデニングを辞めたい、続けられないとなった際に、これから始めたい方へ土をお渡しできるようなお花のイベントや、循環するシステムが出来ると良いと感じた。

事務局

土の問題もあることを改めて承知した。ガーデニング教室は新規と記載があるが、実際は数年前にも実施していて非常に好評だった事業の一つである。

そのような新たな問題や課題をどのように処理をしていけば良いかなどのアドバイスも踏まえながら、ガーデニング教室の開催を視野に入れていきたい。

委 員

重点が非常にわかりやすく細分化されており見やすい。その中で 1 つ気になった点が、重点施策③にある「花による観光スポットの強化・推進」という文言である。

市民目線ではなく、例えば市外や県外、あるいはインバウンドの方向けの文言が散見されており、それに対して次の P12「3.第 4 章 花と緑のまちづくりの施策」の指標はあくまで市民目線のみである。

例えば観光であれば参加人数の推移や参加者の満足度によってどの程度効果があったかを把握しやすい。

事務局

おっしゃる通り、福島市に住んでいる方の指標に留まっており、市外からの視点をどのように数値化できるかが課題と感じた。

花見山では来訪者数は集計しているため検討していきたい。

・P13～19「4.第 5 章中心市街地のネットワーク図について説明。

委 員

私自身花が好きで、一年中様々な花があると良いと思っている。

P9「2.第3章 花と緑の将来像と目標・方針 ■花のネットワーク図」について、このような花があるならば、やはり見てもらうことが大事だと思う。

例えば、季節ごとにおすすめのコースを設定するのはいかがだろうか。今の時期はイチヨウの木がとても綺麗であり、そのことが分かると、ここを周遊してみよう、行ってみようという気持ちで働くのではないかな。

さらに周遊コースとなっていれば、そのコース沿いにお住まいの方は、もう少し自宅も綺麗に設えようという想いにもなるだろう。皆で共に取り組むという意識が大事だと思う。

事務局

どのようなコースでどの時期に花の見頃になるかが分かるような図を事務局でも検討していた。

ふくしま DC(デスティネーションキャンペーン)が開始する 4 月に向けて、例年ではフラワーバスケットも 5 月連休前から設置していたが、3 月下旬から開始することも検討している。

紅葉も含めて 1 年を通して見える色に変化する。事務局でもどのようなコースが設定でき、どの時期に見てもらおうと良いかも含めて検討したい。

次に欠席された副委員長から事前に意見を頂いているので、意見内容とそれに対する事務局の回答について説明させていただく。

(意見1)

P5 にある「中心市街地から周りの拠点に向け、花のある街並みを創出する花を含めた緑視(見え方)として、基準とするポイントを設定し、経年変化を観察する(市民満足度の向上)」の候補地について、P14～P19 の6か所を挙げているが、この抽出した場所に関する(事由)を教えて欲しい。また、経年変化を調べる方法を教えていただきたい。

(意見2)

中心市街地に特化しているが、フルーツラインや県立美術館前など、来街者が訪れる場所の経年変化を調べることは検討されないのか。

理由としては、景観の視点からも、先達山のようなことが起きないようにするには、市民が福島市で大切な緑を守る視点を育てることが大切だと思われる。

経年変化を観察することは、地元が望まない開発行為への抑止力にもなるように思われるため、単に変化を見るだけではなく、福島市として守るべき花や緑を市民が自分事として見守る方法として捉えることができるのではないかと考えた。

(意見3)

クマへの対応は、花と緑の基本計画で触れるべきか難しいとは思いますが、事務局としての考えがあったら伺いたい。

事務局

副委員長のご意見についてお答えする。

今回、提示した候補地は、動線の起点となる駅の東西広場と現在フラワーバスケットを実施している駅前通り、更に今後、花の拡充を検討しているそれぞれの通りを定点箇所として選定した。

経年変化につきましては、定期的に写真を撮り記録として残すとともに市民アンケートを毎年開催し、満足度の変化を確認することと考えている。指標3として、目標にも掲げている。

他の場所での観測は、美術館前の通りも候補として考えており、フルーツラインなども郊外の候補地として検討していきたい。

また、「クマ」への対応についてですが、福島市では熊対策強化方針を決定し、クマを寄せ付けない環境改善、監視体制と出沒時対応の強化などを実施している。

公園緑地課でも河川区域にある公園等の除草、伐木、熊目撃地区近辺にある公園への注意喚起の看板設置などを実施している。他部署においても同じく国や県にも依頼し、河川敷の除草、伐木を実施している。

今回の基本計画においては、緑の質の向上を目標としていることから、河川公園や山間部の公園について下草刈りなど、誰もが安全で安心できるような維持管理について記載していく。

委員

P14以降「4.第5章 中心市街地における花と緑 ■中心市街地 定点観測ポイント」について2点、P13「花、水辺と緑のネットワーク図(中心市街地)」について2点、計4点意見がある。

まず、定点観測について、このような取組をしていただけること大変嬉しく思う。市民の満足度にも関連するような調査方法だと思った。

その上で、P14～19の画像はあくまでイメージということだが、P16福島駅前通り(市道栄町6号線)やP17パセオ通り(市道中町・御山町線)のイメージ図について気になった点がある。

車道からの見え方と歩道からの見え方では大きく変わると思われる。今回は歩行者がいかに緑を感じられるかというアイレベルでの検証になるため、車道からではなく歩道からの見え方の方が検証に値すると感じた。

別委員からの質問にあった経年変化を調べる方法とは、例えばこのような定点観測を行う画像に対して緑被率と同様、メッシュ化し緑量を計測する検証も可能なのではないかと思う。

P13「4.第5章 中心市街地における花と緑 ■花、水辺と緑のネットワーク図(中心市街地)」について、この緑の拠点はコラッセ広場や新浜公園以外にも駅前周辺に特化すれば、さんかく広場、シカク広場、紅葉山公園、西口緑地などもある。

また、中心市街地と記載があるが、西口エリアの検証範囲がとても寂しい状態になっていると感じた。緑のネットワークとして捉える際には浄土平、あづま総合運動公園、フルーツライン、庭坂など、郊外部と結ぶためのハブとなる拠点が中心市街地だと思う。

今後の計画としては、東口に特化したようなネットワーク図をさらに西口にも拡張出来るような考え方があった方が良いと思う。あくまで一意見なので検討していただければ幸いである。

事務局

貴重なご意見感謝する。いただいたご意見は事務局でも検討し、将来的な拡張も含めた考え方として整理したい。

委員

中心市街地における定点観測について1点質問がある。定点観測を実施する頻度はどの程度を想定しているか。

先ほどは3～4月が例として挙げたが、それ以外にもプランターや花壇に植えられている花の種類や、P11で紹介いただいた様々な具体的な施策の従前従後で定点観測できると良い。

事務局

貴重なご意見感謝する。おっしゃる通り季節ごとに咲く花も変化することを踏まえながら、手法の妥当性を検討したい。

委員長

この定点観測は何のために行うものか。先程、別委員からご意見があった通り、自動車からの目線と歩行者からの目線では全く異なる。それを一点に定めて経年的に追ったとして何か新しい知見が得られるか私は疑問に思う。

そして、それは緑量の増減がなければデータとしては意味がない。街路樹が伐採されてしまうような状況や、壁面緑化がされる環境であれば大きく変化していることが分かるが、そのようなことも起きそうにない。従って何のために定点観測を行おうとしているのかも一度確認したい。

このことよりも現時点で福島市の中心部における緑量や歩行者の視点から見た景色、逆に緑量はあるが歩道から見るとあまり効果がないというようなことを場所ごとに確認の方が現実的と思う。

委員

第2回策定委員会では、大阪うめきたの事例を例に意見を申し上げた。

委員長のおっしゃる通り1枚の写真から得られる情報には限りがある。

改めてうめきたの緑視率の算出方法を確認したところ、うめきたでは一方向のみではなく様々な方向に撮影している。

そして計6方向全ての緑被率を計算し平均値を算出することで意味のある定点観測のデータを得ている。車道からのみ、歩道からのみではなく、いくつかの角度、定点を決めて撮影を行えば意味あるものにはなると思う。以上のような考え方から、一箇所に定めずに複数枚から検証することを進めていただければ良いと思う。

委員長

そのような検証方法には意味があることだとは思う。しかし先ほど申し上げた通り、経年的にデータを取る必要があるか疑問に思う。

うめきたのように建設時や設計時のプレゼンテーションとしては重要な情報だが、行政資源を使用してまで実施するほどのものか疑問である。

指標に関して意見と質問が3点ある。

1点目は、物的な指標である。緑被率は、上から見てどれだけ緑が覆われているかを確認する手法である。これは緑量が増えたから良いわけでもない。人間の経験、体験とは異なるからである。

2点目は、緑視率の取扱いについてである。この観点は確かに重要だが計測が難しいため、体系的な手法がなければ簡単にはいかない。我々は緑視率を懸命に取り組んでいた世代である。緑の箇所をマウスで追ってトレースし計測することを盛んに行った時代である。

しかし、今思うとプレゼンテーションを行うには重要だが計画や行政にとってはあまり良いデータではなかったと思う。

3点目は、イメージや価値観が人の心にどれだけ届くかという点である。これが今回のテーマとなっている Well-being を測るには重要な観点である。

指標を設定することは難しいため、本当に心を動かすものを作る仕組みを考えていくと良い。そのような方向に向けて計画を作成していきたい。

今回の委員会で印象に残った点の1つはサイクルである。P11 の体系図に対して改めて考えると、なぜ「まもる」「つくる」「育てる」なのだろうと思った。

あまりにも固定観念になっていてこれで本当に良いのかと思う。「まもる」「つくる」とは、つまり保全と整備である。都市が開発されていく時代であれば、この「つくる」「まもる」、保全する、整備することが有効であった。ところがそのような時代ではないということが大前提としてある。本当にこの枠組みで良いのだろうか。

さらに別委員からご指摘があったとおり、「育てる」というのは何を育てるのか。様々なものがここに混ざっていて、その他はどこに含まれているのだろうかと思った。

私が思うにこれは公園緑地の計画のため、「つくる」「まもる」はあってしかるべきと思うが、もう一つ大事な観点は、「活かす」だと思う。今あるものを大切にしつつ、あるものをどのように活かすかを考えることの方が重要である。

そのため「つくる」「育てる」に活用の視点を入れ込む必要があると思う。

どのようなことが緑にとって活用となるかと考えると、例えばそこを拠点に活動が広がる、体験が深まる、緑が波及効果を持つ、バラバラにある様々なものが総合化されて意味を持つなどが挙げられる。

続いて人々のイメージ形成に関わっていくという点が印象に残った。今回はネットワーク図が資料として示された。これを見て福島市はこんなにも花や緑が沢山あるのかと思った。こんなにもケヤキの素晴らしい道路が郊外まで幹線道路沿いに伸びているまちはそう多くない。

さらに郊外部に行くと春には素晴らしい花が咲く田園地帯が広がる。これだけあるならば、もっと人々のイメージに定着していても良いのではないか、もっと訴求出来るものがあるのではないかと思う。このような今ある資源をどう活かすかが大事なテーマとなるのではないか。

また、人材を育てることも大事だというご指摘があった通り、もう1つ印象に残った点はその循環である。別委員より土に関する循環についてお話いただいたが、表面的な緑、花だけではなく、その裏には水の循環があり、土の循環がある。特に土の循環は、農家でない限り大変であるため、住民にとっての土の循環を確立するだけでも大きな進展だと思う。

さらに3点目も挙げるとすれば情報についてである。なぜイメージとして定着していないのか、もっとアピール出来ないのかというと、花や緑の拠点が情報として整理されていないためだと思われる。それに対して何か手立てはないかと考えていた。

委員

文言に一部違和感がある。

通常、緑の基本計画というタイトルを花と緑の基本計画としているのであればそれにふさわ

しい取組が必要である。

そして基本理念として掲げている「花と緑が実り彩り湧き満ちるまち ふくしま」というテーマは非常に壮大だと思う。

福島市の考え方として、コンパクト+ネットワークのまちづくりの中で「Well-being が実感出来る水と緑豊かな都市」と記載がある。この「水」とはどこから出てきたのかという疑問がある。

さらに、エリア全体で Well-being を実感出来るとあるが、本当に実現出来るのか。

エリアを絞るか、体験できるエリアがあるという方が現実的ではないか。そして水辺という言葉が多く散見されるが、これから拠点を作るという意味か。

委員長

キャッチフレーズはすでに決まっているのか、または検討している状態か。

事務局

確定ではない。皆様からご意見をいただきながら、より良いものとなるように検討する。

委員

定点観測について意見を述べる。やはり既存の完成した街並みに追加するにはどうしても限界があると思う。水道も電線も通っていてタイルも敷いてあり、それを剥がして街路樹を植えるには予算も非常に厳しそうだと思っていた。

その中で、定点観測を1年間実施した変化をみると、おそらく変化の割合は1～2%程度であると考えられる。人間は単純な生き物で微細な変化は気付かない。結果、この検証を行い、予算をいくら使用したかと問われた際に反感を買う可能性は非常にあると思っている。

そうであれば P8 水辺と緑のネットワーク図や P13 花、水辺と緑のネットワーク図(中心市街地)にもあるとおり緑の拠点が数箇所見られる中心市街地のさんかく広場やシカク広場などは道路と比較すれば改善しやすい。

このような手を付けやすいところ、改善しやすく大きく変化を付けやすいところに注力してつなぐ方が、より現実的と思った次第である。資金面は分からないため、一意見として述べた。

委員

街路樹の問題について、例えば幹線道路沿いのケヤキを剪定してもまた次の年には茂る様子を見ている。これから植える街路樹は手間のかからない、あまり大きく成長しないものにしてほしい。

13号線から福島大学附属小学校にかけて新しい道路が作られたが、その街路樹は密集せず、に等間隔で植えられている。このような街路樹が私としては理想である。

また、1軒に1鉢ずつ植木鉢を置くことは土の問題等もあり難しいと思うが、1 鉢か 2 鉢は

置いていただきたい。

委 員

まちなかを歩いたり自動車に乗っていたりすると、花は目につくが、それ以外にゴミや雑草も目につく。いくら花で綺麗に飾ってもゴミや雑草があると生きていないように思う。

どうして綺麗に出来ないのかと帰宅すると自宅の草むしりを行おうという気にはなるが、福島市全体としてそのような景観も含めて整備していかないとせっかくの皆様の頑張りが生きていかないのではないかと思う。

委員長

その通りである。プラスの側面ばかりでなく、マイナスの側面を減らすことも大事である。

委 員

別委員がニュース番組で観た土の問題のお話をされていたが、おそらく私も昨日同じニュースを観ていた。

私は郡山市に住んでいるが郡山市の公園もガーデニングを行ったが土処理が出来なかったであろうと見受けられる土が様々な場所に捨てられており、そこから苔やキノコが生えていたりする。

花と緑とは少々異なってくるかもしれないが、そのような外来種の問題も花と緑の基本計画をつくる上では重要な視点だと思う。

委 員

第2回策定委員会にて、緑があるだけではなく人々の暮らしやライフスタイルに合わせて、検討出来たら良いという話が非常に印象に残っている。

これに加え、今回の議論の中で「つくる」「まもる」「育てる」だけではなく、育てて活用する点も非常に印象に残った。

様々な事業に参加することで市民が花や緑を大切にしようという意識が変化したり、実際に行動に移したりすることがあれば、より活用することにつながるのではないかと感じた。

委 員

別委員がおっしゃったとおり、確かにタイトルに対して莫大な予算が付いているような印象を感じた。これからどのように計画として進めていくかについては、今後の検討事項だと思う。

本計画がどの程度の規模感、ボリューム感で位置付けられているかをこれまでの3回の委員会で考えながら話を聞いていたが、個別施策として挙げている10項目について、福島市としての弱点や、これからさらに伸ばしていくべき点を見据えていることは素晴らしいと思う。

ただし、実際に取組を進めていく中で、計画や実施するまでの調整と運用を考えると、

さらに重点的に絞り出し、一つの施策に対して数多くの意見を集め、多くの人々が共生できるような体制で項目を達成していくことが重要だと思う。

福島わらじまつりや花火大会等は 1、2 名で担当されており、てんやわんやになっていると伺った。1つの重要施策に様々な方が関わるため実現可能性も踏まえて計画していただけると良いと思った。

委員

花と緑の基本計画と森林ビジョンは兄弟のような位置付けと認識していた。森林ビジョンの基本方針はとてもシンプルで「まもり、育て、活かす」とある。花と緑の基本計画が「まもり、つくる、育てる」となっているが、森林ビジョンに揃えるわけではないが、新しく作るより現状のものを活かす方が良いと皆様のお話を聞いて思った。

基本方針Ⅰや基本方針Ⅲは森林ビジョンと重複する箇所があるため、リンクしていた方が計画しやすいと思う。

また、福島市都市計画課で「ふくしま市景観100選」を公表しているが、景観100選に掲載されている拠点も地図上にプロットすると見やすくなると思った。

委員

自身の意見を少々覆すが、別委員がおっしゃる通り、緑視率を経年で算出しても、おそらく1～2%しか変わらないというのはもっともな意見で、検証方法としてメッシュをかけるのは言い過ぎだったと思う。

ただ緑被率のみではどうしてもマクロな評価軸と評価方法になってしまう。

基本方針Ⅱにおいて、駅前通りフラワーバスケット事業、花のまちチャレンジガーデン事業、駅前広場花のまちづくり事業のようなミクロな取組も行われていくため、情報としてアーカイブする上で定点観測はあって良いと思う。

ただし、データの扱い方は今後、より検証などが必要である。別委員のおっしゃるとおり、緑の基本計画ではなく、花と緑の基本計画という「花」がついているという部分で、従来のただ緑のみを検証調査すれば良いわけではないと感じる。

別委員もおっしゃっていた四季による変化についても、今和次郎の考現学ではないが似た文脈を感じる。

全ての情報をアーカイブすることは意義があると思う。個人的な意見になるが、定点観測は実施すれば今後に活かせるのではないか。福島市に労力がかかってしまうが、なんとかお願いしたい。

委員長

私からも1点言い忘れていたことがある。

P4「2.第3章 花と緑の将来像と目標・方針(再掲)■目指す将来像」について、「花と緑が

実り彩り湧き満ちるまち ふくしま」が長くて覚えられない。少々並びが悪い。もう少しこなれた表現が良い。

若い時は思わなかったが、年を重ねてから拝見すると Well-being という英語をそのまま使用するのはいかがかと思う。日本語を当てて、せめて入れるとしても括弧書き程度にし、素直な日本語で市民に伝わりやすい形にしていきたい。

もう1点、目指す将来像は広く公開されるものであり、これ自体がアピール効果を持つことが重要だと思う。

先程、活用について申し上げたが、現況評価と既存施策の評価が大事で、評価とは良い悪いということではない。

例えば P13 の花、水辺と緑のネットワーク図(中心市街地)のようなベースとなる図面に、実際どこにどのような街路樹があるかを示していただきたい。

例えば先程も話題に挙がったイチヨウ、ケヤキ、ハナミズキはこの辺りというデータがあるだけでも、それが市民に伝われば春はハナミズキの通りに行ってみよう、歩いてみようとする手立てにもなり、福島市の全体像が見えてくる。

そのような基礎作業があるとありがたい。緑視率についても経年変化ではなく、現在の段階で実際の見え方、例えば歩道沿いに前方を見たら見える景色や、その脇を見たら店先の詳細が見えて面白い通りだとわかる、そのような写真が並んでいるだけでもワクワクしてくる通りだと伝わる。

このように、様々な角度で緑や花の現状を伝え、この先の活用を考えてもらう方向に向かうことが計画策定の戦略ではないかと思う。

本日、挙がった意見は事務局にお返しし、十分練っていただき計画原案へ反映いただきたい。

事務局

議題②今後のスケジュールについて

当初、皆様にご説明させていただいておりましたスケジュールから遅れるかたちとなっている。第4回策定検討委員会を令和 8 年 1 月中旬に開催する予定で、次回の策定検討委員会では本編をお示ししたいと考えている。

令和8年 2～3 月にかけてパブリックコメントの実施を予定している。

令和8年6月議会にて報告し、令和 8 年 7 月初旬より計画施行で予定している。

出席委員

了解。

4. 閉会